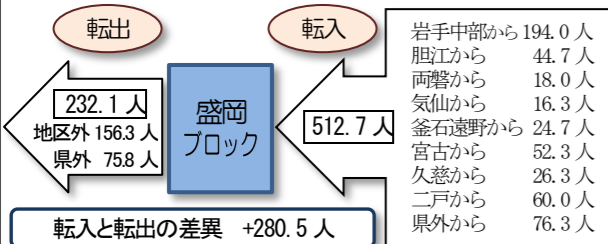


【策定趣旨】 地域における学校の役割を重視した魅力ある学校づくりに向けて、学校規模の大きさを生かした発展的な統合を行い、さらに先導的な取組ができる教育環境の整備を図るもの

1 現状

■ 入学者のブロック間交流の状況 (H30～R2 年度の平均)



※公立高校の全日制・定時制及び私立高校を対象（過年度卒を含む）
※四捨五入の関係で、計が一致しない場合がある

■ 盛岡市内の中学校卒業予定者数

| | R2年3月 | R3年3月 | R4年3月 | R5年3月 | R6年3月 | R7年3月 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 盛岡市内 | 2,626 | 2,421 | 2,681 | 2,508 | 2,541 | 2,512 |
| 盛岡ブロック | 4,176 | 3,893 | 4,192 | 4,009 | 3,980 | 3,986 |

■ 盛岡市内の学校数の推移（県立高校全日制）

| | H12 | H17 | H22 | H27 | R2 |
|------|-----|-----|-----|-----|----|
| 盛岡市内 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| 全 県 | 84 | 77 | 64 | 63 | 62 |

■ 盛岡市内の平均学級数の推移（県立高校全日制）

| | H12 | H17 | H22 | H27 | R2 |
|--|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 8.0 | 7.0 | 6.7 | 6.4 | 6.3 |

課題

- 中学校卒業予定者数は減少しているものの、県内全域から入学志願者が集まっていることから盛岡市内の県立高校の志願倍率は高い状況にあり、一極集中を緩和する必要がある。
- これまで、学級数調整により生徒数の減少への対応を図ってきたが、統合により、一定の学校規模を確保する必要がある。

地域検討会議における主な意見

- 盛岡地区への学校の集中や、他地域からの生徒の流入を是正する必要がある。
- 社会に必要な人材がイメージできる授業が理想的である。特色ある学びは存続して欲しい。
- 生徒数の減少による高校の小規模化への対応は盛岡市内も例外ではない。
- 盛岡市内も学級数調整ではなく、普通高校の統合を行うべきである。

統合新設校

本県の様々な分野の振興に資する人材の育成を果たす学校へ

2 学校統合の内容

盛岡南高校

定員 240 名
普通科 5 学級（うち体育コース 1 学級）
体育科 1 学級

体育、芸術等の特色ある教育
を実践する2校の発展的統合

- 多様な価値観に触れながら切磋琢磨
- スケールメリットを生かした、より一層の活性化

不来方高校

定員 280 名
普通科（総合選択制） 7 学級
5 学系（人文、理数、芸術、外国語、体育）

盛岡ブロックにおける特色ある学習活動等に取り組む大規模校の設置（令和7年度）

定員 320 人（8 学級）県内最大規模

- 学科等の編制については、普通科（総合選択制）を適用し、大学進学等に向けた文系、理系の学びの他、芸術、外国語、スポーツに関する多様な学びを確保
- 盛岡南高校の体育科の学びについては、体育学系を 2 学級とする、又は体育学系の他に体育科として維持することにより教育内容を充実



- 令和 4 年度から盛岡南高校（普通科）の募集を 1 学級ずつ減じ、令和 7 年度に統合
※ 統合年度から、現在の不来方高校校舎の使用を想定

| 学校名 | R4 | R5 | R6 |
|-----|------------------------|------------------------|------------------------|
| 盛岡南 | 17 学級 (5・6・6) 1 学級減 | 15 学級 (4・5・6) 1 学級減 | 12 学級 (3・4・5) 1 学級減 |
| 不来方 | 21 学級 (7・7・7) | 21 学級 (7・7・7) | 21 学級 (7・7・7) |

※ R5・R6 入学者

- 両校の生徒とも、新設校の生徒となる（新設校の校舎で学ぶ）
- 入学した学科・学系で卒業することとなる

| | R7 | R8 | R9 |
|-------|-----------------|----------------|---------------|
| 統合・新設 | 29 学級 (8・10・11) | 26 学級 (8・8・10) | 24 学級 (8・8・8) |

- 現在の両校に設置している部活動については新たな学校に引継ぎ、部活動の選択肢が広がる他、さらに先導的な実践に取り組むことができる教育環境を整備

◆ R2 部活動の設置状況（丸数字は R1 県高校総合体育大会の順位を表す）

| 区分 | 部活動 学校名 | 部活動 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|------------|------|----|----|----|------|--------|--------|------|----|-----|--------|----|-------|----|-------|--------|----|----|-------|------|-----|-----|-------|----|----|-----|----|----|----|----|-----|-------|-------|------|----|---|---|
| | | 硬式野球 | 弓道 | 剣道 | 柔道 | サッカー | バレーボール | ハンドボール | ラグビー | 水泳 | スキー | ソフトテニス | 卓球 | 硬式テニス | 登山 | バスケット | バドミントン | 陸上 | 体操 | ボクシング | ホッケー | カヌー | 空手道 | 語学・国際 | 演劇 | 音楽 | 軽音楽 | 茶道 | 華道 | 写真 | 書道 | 吹奏楽 | 文芸・文学 | 美術・芸術 | 放送演劇 | 工芸 | | |
| 男子 | 盛岡南 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 不来方 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 女子 | 盛岡南 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 不来方 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

統合・新設校の校名、校舎・施設設備、学科・学系の構成等に関する具体的な内容については、統合対象校の校長等、PTA 及び同窓会、並びに所在地の教育委員会及び地域の中学校の代表者等で構成される統合検討委員会を設置し、委員の皆さんの意見を伺いながら検討します。

3 岩手で活躍する人材の育成

県民誰もが文化芸術に親しみ創造できる、魅力あふれる岩手
（岩手県文化芸術振興指針の目標）

- 岩手の特徴を生かした文化芸術の振興と交流の推進
- 県民誰もが文化芸術を鑑賞、参加、創造できる環境整備
- 日常生活を豊かにする文化芸術情報の発信
- 障がい者による文化芸術活動の総合的推進

海外の多様な文化を理解し、共に生活できる地域づくり
（いわて県民計画におけるコミュニティ分野の目標）

- 外国人県民等が暮らしやすい環境づくり
- 海外との交流の促進
- ※ この他、仕事・収入分野において、戦略的県産農林水産物の輸出促進や外国人観光客への対応等、海外との経済交流の拡大にも取り組むこととしています。

スポーツの推進による、県民誰もが健やかで輝く岩手の創造
（岩手県スポーツ推進計画の目標）

- ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進
- 共生社会型スポーツの推進
- 国際的に活躍する競技スポーツの推進
- 地域を活性化させるスポーツの推進

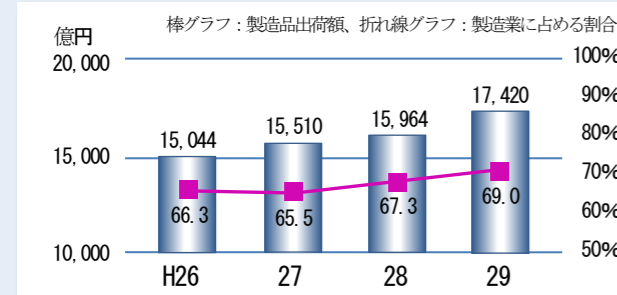
県南地域における産業教育の拠点となる専門高校の整備について

【策定趣旨】 地域における学校の役割を重視した魅力ある学校づくりに向けて、地域の社会情勢や産業振興の動向等を踏まえ、学ぶことができる教育環境の整備を図るもの

1 現状

本県の産業動向

- 主なものづくり産業(輸送用機械、半導体製造装置、電子部品、デバイス等)における製造品出荷額の推移



(出典：工業統計調査報告書)

専門教育を行う学校の状況

(H26～R2 は実績)

■ 水沢工業高校の入学者数推計

| H26 | H29 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 160 | 134 | 149 | 136 | 145 | 142 | 141 | 132 | 139 | 135 |

■ 一関工業高校の入学者数推計

| H26 | H29 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 156 | 119 | 113 | 123 | 121 | 116 | 113 | 111 | 109 | 100 |

■ 千厩高校(工業科)の入学者数推計

| H26 | H29 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 |
|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 37 | 33 | 32 | 28 | 27 | 26 | 26 | 25 | 24 | 23 |

(参考) 県南地域の中学校卒業生数見込み

| ブロック | R2年3月 | R3年3月 | R4年3月 | R5年3月 | R6年3月 | R7年3月 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 胆江 | 1,174 | 1,046 | 1,117 | 1,104 | 1,090 | 1,018 |
| 両磐 | 1,082 | 1,076 | 1,056 | 1,009 | 1,001 | 961 |
| 計 | 2,256 | 2,122 | 2,173 | 2,113 | 2,091 | 1,979 |

課題

自動車や半導体関連産業等を中心とした産業集積が進んでおり、ものづくり産業を担う人材を育成する必要がある。

地域検討会議における主な意見

- ・ 東北を代表するものづくり先進県として工業系の学校を維持し、職業人の育成を推進するべきである。
- ・ 少子化の状況、県の産業振興の方向性、産業界の動向・ニーズ等、県全体の状況をしっかりと把握した上で再編を進めるべきである。
- ・ 工業については特色ある学科を増やすなど、産業人材の育成の在り方を示すべきである。
- ・ 専門高校は、学ぶ内容の異なる学科間における競争が学校の活性化のために必要である。

2 学校の統合による魅力向上化

水沢工業高校

定員 160 名：4 学科 4 学級

[機械科、電気科、設備システム科、インテリア科]

一関工業高校

定員 120 名：3 学科 3 学級

[電気電子科、電子機械科、土木科]

千厩高校(工業科)

定員 40 名：1 学科 1 学級

[産業技術科]

ブロックを越えた工業高校の発展的統合

県南地域における大規模な工業高校の新設(令和7年度以降)

定員 240 人：6 学級校(工業学科6)

産業人材のニーズに幅広く対応できる工業教育を充実

- ・ 盛岡工業高校、黒沢尻工業高校と並ぶ、県南における工業教育の基幹校として整備
- ・ 学校規模を拡大することにより、現在設置している機械、電気、土木のほか、全国的にも設置数の少ない設備システム、インテリアの特色ある学びを確保するとともに、ITやIoT、AI等、これからの技術革新に対応した学びを実現する学科の創設を検討
 - ※ 愛知県では2021年度から県立工業高校を「工科高校」とし、IT工学科やロボット工学科等を設置
- ・ 新校舎建設を前提とし、工業教育に関する最新の施設設備を整備

統合による効果

- ① 工業教育における専門性の深化・新たな学びの実現
 - ・ 高度化が進む新時代に対応する力や、生産性の向上に寄与する実践的な学びの実現
 - ・ 生徒の多様な進路実現に向けた専門分野の知識・技術の定着・向上
 - ・ 多様な資格取得、技能検定等への挑戦による、即戦力となる工業人材の育成
 - ・ 同じ学校で各分野を学んだ卒業生同士の連携による地域産業の振興
- ② 学校規模の拡大による活動の活性化
 - ・ 体育祭、文化祭等における企画の内容の拡大、充実
 - ・ 部活動の充実、選択肢の増加、新たな部活動新設の可能性
- ③ 地域企業の技術力と競争力の向上などによる一層の産業集積の推進
 - ・ 時代に対応した、高いレベルの人材育成による、企業誘致の促進
 - ・ IoT等の革新技術を導入した、地域企業の生産性向上に資する人材育成の促進
- ④ ILC誘致を見据えた人材の育成
 - ・ ILCに関わる幅広い分野で活躍できる人材育成の実現
 - ・ 専門科目「課題研究」等、専門教育の充実

【参考】 ILC推進モデル校における取組(主なもの)

岩手ILC連携室オープンラボ見学、高エネルギー加速器研究機構(KEK)見学(つくば市)、ILC講演会開催、文化祭での発表(模型製作、活動報告、PR活動)、推進モデル校成果交流会等

統合・新設校の校名、校舎・施設設備、学科の構成等に関する具体的な内容については、統合対象校の校長等、PTA及び同窓会、並びに所在地の教育委員会及び地域の中学校の代表者等で構成される統合検討委員会を設置し、委員の皆さんの意見を伺いながら検討します。

3 県南地域の振興に向けて

【統合校の状況】

特色ある学習活動

- ・ 地域企業と連携したインターンシップ、企業見学会等の実施
- ・ 「北上川流域ものづくりネットワーク」の支援による各種技術講習会、出前授業、企業ガイダンス、工場見学等の開催等

資格取得の充実

ボイラー技士、電気工事士、危険物取扱者、測量士補、ITパスポート、電気工事施工管理技術検定、土木施工管理技術検定、各種技能検定(シーケンス制御、電子機器組立、機械加工、機械保全)等

各校の実績・成果を継承し、
更なる向上への取組を図る

工業の専門的な学びを希望する、
より多くの生徒に選択される学校へ

県南地域に集積する産業を支える
人材を、この地域で育成する

いわて県民計画(2019～2028)

「北上川バレープロジェクト」の推進へ

- ・ 県南部の北上川流域において自動車や半導体関連産業を中心とした産業集積の振興に対応した高度技術人材の育成
- ・ IoTやAIを活用する『第4次産業革命技術』のあらゆる産業分野への導入等

21世紀にふさわしい新しい時代を切り
拓く先行モデルとなるゾーンの創造

宮古ブロックにおける地域の産業教育の拠点となる専門高校の整備について

【策定趣旨】 地域における学校の役割を重視した魅力ある学校づくりに向けて、地域の社会情勢や産業振興の動向等を踏まえ、学ぶことができる教育環境の整備を図るもの

1 現状

(1) 地域産業の状況等

- 物流基盤の整備が進み、基幹産業である水産業をはじめ、ものづくり産業の振興や、多様な地域資源を生かした交流人口の拡大が見込まれる。
- 漁業協同組合の組合員数は減少しており、高齢化の進行に伴う減少の継続が見込まれる。

(参考1) 年齢階層別の漁業就業者数の推移

| 年齢階層 | H5 | H10 | H15 | H20 | H25 | H30 |
|----------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 30歳未満 | 956 | 525 | 438 | 430 | 312 | 360 |
| 30代 | 1,917 | 1,263 | 859 | 695 | 431 | 484 |
| 40代 | 3,373 | 2,480 | 1,599 | 1,349 | 871 | 736 |
| 50代 | 4,407 | 3,186 | 2,752 | 2,374 | 1,362 | 1,184 |
| 60歳以上 | 4,488 | 4,989 | 4,824 | 5,100 | 3,313 | 3,563 |
| 計 | 15,141 | 12,443 | 10,472 | 9,948 | 6,289 | 6,327 |
| 60歳以上構成比 | 29.6% | 40.1% | 46.1% | 51.3% | 52.7% | 56.3% |

漁業センサス（農林水産省）を加工

(2) 専門教育を行う高校の状況

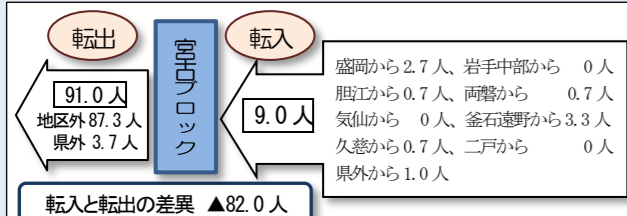
■ 宮古商工高校の入学者数推計 (H27、R2は実績値)

| | H27 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 223 | 158 | 157 | 156 | 167 | 160 | 141 | |

■ 宮古水産高校の入学者数推計

| | H27 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|
| 学校全体 | 75 | 46 | 48 | 49 | 52 | 50 | 44 |
| うち水産学科 | (48) | (12) | (15) | (14) | (15) | (15) | (13) |

(参考2) 入学者のブロック間交流の状況(H30～R2年度の平均)



※公立高校の全日制・定時制及び私立高校を対象（過年度卒を含む）
※四捨五入の関係で、計が一致しない場合がある

(参考3) 宮古ブロックの中学校卒業生数見込み

| | R2年3月 | R3年3月 | R4年3月 | R5年3月 | R6年3月 | R7年3月 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 571 | 580 | 553 | 621 | 574 | 511 | |

課題

専門学科の入学者を確保し、地域の商業、工業、水産、家庭等に関する教育を維持しながら、地域産業を支える人材を育成する必要がある。

地域検討会議における主な意見

- 地域で学ぶ教育環境をしっかり守ることが大切である。水産、工業、商業等に関する専門学科の存続を図り、今後の専門教育の在り方を考えてほしい。
- 地域経済をけん引する産業への就業者の定着を担うのが高校の責務である。
- 宮古商工と宮古水産を新校舎建設のもとで統合し、沿岸地区の産業教育の拠点校とするべきである。

2 学校の統合による魅力向上化

宮古商工高校

定員 200 名：5 学科 5 学級

[工業：機械システム科・電気システム科]

[商業：総合ビジネス科、流通ビジネス科、情報ビジネス科]

専門教育を実践する
2校の発展的統合

宮古水産高校

定員 80 名：2 学科 2 学級

[水産：海洋生産科、家庭：食物科]

※専攻科（漁業科）定員 15 名、修業年限 2 年

宮古ブロックにおける総合的な専門高校の設置（令和7年度）

定員 240 人：6 学級校（学科数：工業 2、商業 2、水産 1、家庭 1）

ブロック内の各専門分野に関する特色ある学科の機能を維持した統合により、複数の職業系専門学科を併置した「総合的な専門高校」として再編

- 現行の両校における、各学科の学びを維持
- 統合形態については、校舎の老朽化を踏まえ、新校舎建設を視野に入れ、方向性を検討
- 宮古水産高校の専攻科を維持

統合による効果

① 商業、工業、水産、家庭が連携した学びの充実

- 他学科の学びの体験等により新たな時代をリードする産業人材の育成（「総合的な探究の時間」等を活用した学びの交流）
- 地元企業や団体と協力して開発した製品等を活用・流通させる学びの実践（基幹産業である水産業における生産、加工、流通、販売を一体的に捉え、その生産性の向上や高付加価値化への取組等）
- 海洋生産科の船舶運航コースと工業系学科が連携した機械操作、運転、修理等に関する学習
- 同じ学校でそれぞれの分野を学んだ卒業生同士の連携による地域産業の振興

② 学校規模の拡大による活動の活性化

- 体育祭、文化祭等における企画の内容の拡大、充実
- 部活動の充実、選択肢の増加（新たな部活動新設の可能性）

■ R2部活動の設置状況

| 区分 | 部活動 | 部活動 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|------|------|----|----|----|------|--------|------|--------|--------|----|-------|--------|----|-----|-------|-------|------|------|----|----|----|----|-----|----|----|----|-------|-----|-----|------|-----|---|---|---|
| | | 硬式野球 | 弓道 | 剣道 | 柔道 | サッカー | バレーボール | ラグビー | ソフトテニス | ソフトボール | 卓球 | バスケット | バドミントン | 陸上 | ヨット | レスリング | ボクシング | マラソン | 囲碁将棋 | 茶道 | 華道 | 写真 | 書道 | 吹奏楽 | 美術 | 太鼓 | 工作 | パソコン系 | 家庭系 | アクト | 商業研究 | JRC | | | |
| 男子 | 宮古商工 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 宮古水産 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女子 | 宮古商工 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 宮古水産 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

③ 男女バランスの平準化

〔R2在籍生徒の状況〕 宮古商工高校：男子 316 人、女子 211 人（うち、工業学科 6 人）

宮古水産高校：男子 46 人（うち、水産学科 34 人）、女子 101 人（うち、水産学科 6 人）

〔2校合計〕

男子 362 人、女子 312 人

統合・新設校の校名、校舎・施設設備、学科の構成等に関する具体的な内容については、統合対象校の校長等、PTA及び同窓会、並びに所在地の教育委員会及び地域の中学校の代表者等で構成される統合検討委員会を設置し、委員の皆さんの意見を伺いながら検討します。

3 宮古地域の振興に向けて

○ 専門分野の特色等（主なもの）

【宮古商工高校】

- 〔商業〕・模擬株式会社「宮商デパート」の開催
・各種検定、資格取得の励行
- 〔工業〕・防災まちづくり大賞 総務大臣賞
・全国ものづくりコンテスト東北大会入賞
・各種検定、資格取得の励行

【宮古水産高校】

- 〔水産〕〔船舶運航コース〕
・船舶専用機関の操作、運転等の学習
・「りあす丸」による漁業航海実習
- 〔食品資源コース〕
・養殖等を通じた6次産業化の学習
・食品衛生管理（HACCP等）の学習
- 〔家庭〕調理師資格の取得（厚労省の指定学科）

各高校の実績・成果を継承し、
更なる向上への取組を図る

専門的な学びを希望する、
より多くの生徒が集う学校へ

宮古地区の中学校から 91.0 人がブロック
外の学校に進学（H30～R2年度の平均）

【宮古地区の生徒を他地区に流出させない】

宮古地域の産業・社会を支える
人材を、この地域で育成する

いわて県民計画(2019～2028)

「三陸防災復興ゾーンプロジェクト」の推進へ

- 東日本大震災津波からの復興の取り組みにより大きく進展した街づくりや交通ネットワーク、港湾機能などを生かした地域産業の振興
- 三陸地域の多様な魅力の発信による国内外との交流の活発化等

岩手県の国内外をつなぐ海側の結節点として持続的に発展するゾーンの創造

二戸ブロックにおける地域の産業教育の拠点となる専門高校の整備について

【策定趣旨】地域における学校の役割を重視した魅力ある学校づくりに向けて、地域の社会情勢や産業振興の動向等を踏まえ、学ぶことができる教育環境の整備を図るもの

1 現状

(1) 地域産業の動向等

高い技術力を有するものづくり産業や農林業等が集積されており、地域産業を担う人材の育成とともに、高齢化社会に対応した介護人材の育成が求められている。

- ・ 製造品出荷額は、東日本大震災以降、増加傾向（アパレル関連産業の産地）
- ・ 農畜産分野（酪農、養豚、プロイラー等）は、県内有数の産地形成
- ・ 食料品製造は地域経済と雇用を支える産業
- ・ 県平均を上回る人口減少、高齢化率

(2) 専門教育を行う高校の状況

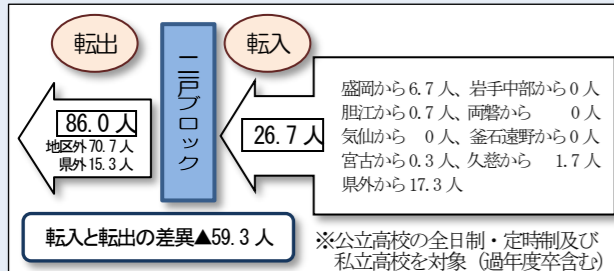
■ 福岡工業高校の入学者数推計（H27、R2は実績値）

| H27 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|-----|----|----|----|----|----|----|
| 60 | 39 | 38 | 42 | 39 | 34 | 37 |

■ 一戸高校の入学者数推計

| H27 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|-----|----|----|----|----|----|----|
| 69 | 98 | 84 | 88 | 80 | 77 | 78 |

(参考1) 入学者のブロック間交流の状況(H30～R2年度の平均)



(参考2) 二戸ブロックの中学校卒業生数見込み

| R2年3月 | R3年3月 | R4年3月 | R5年3月 | R6年3月 | R7年3月 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 422 | 396 | 416 | 381 | 349 | 368 |

課題

二戸地域の工業、商業、農業、家庭、福祉等の専門分野に関する教育を維持しながら、地域を支える人材を育成する必要がある。

地域検討会議における主な意見

- ・ 生まれ育った地域で学びながら巣立つことができる環境整備が大切である。
- ・ 地域産業の人材育成を念頭に置き、バランスの取れた学科の配置が必要である。
- ・ ある程度の集約化と校舎制の検討も視野に入れる必要がある。
- ・ 人材育成に配慮した学科や系列を維持し、地域と歩調を合わせた高校教育を目指すべきである。
- ・ 二戸ブロックから地区外に転出する生徒が多い。

2 学校の統合による魅力向上化

福岡工業高校

定員 80 名：2 学科 2 学級

[機械システム科・電気情報システム科]

専門教育を実践する
2校の発展的統合

一戸高校

定員 120 名 1 学科 3 学級

[総合学科]

二戸ブロックにおける専門教育を担う学校の設置（令和6年度）

定員 160 人：4 学級校（学科数：工業学科 1、総合学科 3）

ブロック内の各専門分野に関する特色ある学科等の機能を維持した統合により、地域の将来を見据えた専門教育の拠点となる学校として再編

- ・ 工業学科は、現行の機械と電気の学びをコース等により維持
- ・ 総合学科は、現行の系列（人文・自然、情報ビジネス、生活・文化（農業・家庭等）、介護・福祉）を維持
- ・ 両校の校舎等を活用した「校舎制」とし、福岡工業高校の校舎については、工業学科における学習のほか、現在行われている特別支援教育の場として引き続き活用

統合による効果

① 農業・工業・商業・福祉が連携した学びの充実

- ・ 「総合的な探究の時間」等を活用した学びの交流（工業学科・総合学科各系列の生徒が相互の学びを体験）
- ・ 地元企業や団体と協力した学びの実践（地域にある多様な産業に関連し、生産、加工、流通、販売を一体的に捉え、その生産性の向上や高付加価値化への取組等）
- ・ 同じ学校でそれぞれの分野を学んだ卒業生同士の連携による地域産業の振興

② 学校規模の拡大による活動の活性化

- ・ 体育祭、文化祭等における企画の内容の拡大、充実
- ・ 部活動の充実、選択肢の増加、新たな部活動新設の可能性

■ R2部活動の設置状況

| 区分 | 部活動 学校名 | 硬式野球 | 弓道 | 剣道 | 柔道 | サッカー | バレーボール | ラグビー | ソフトテニス | ソフトボール | 卓球 | 硬式テニス | バスケット | 陸上 | なぎなた | 音楽 | 科学 | 茶道 | 華道 | 書道 | 吹奏楽 | 美術 | 華一 | 総合文化 |
|----|------------|------|------|----|----|------|--------|------|--------|--------|----|-------|-------|----|------|----|----|----|----|----|-----|----|----|------|
| | | 男子 | 福岡工業 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| 一戸 | | ○ | | ○ | | ○ | | | | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 女子 | 福岡工業 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 一戸 | | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |

③ 男女バランスの平準化

【R2在籍生徒の状況】 福岡工業高校：男子 121 人、女子 10 人

一戸高校：男子 92 人、女子 178 人

〔2校合計〕

男子 213 人、女子 188 人

統合・新設校の校名、校舎・施設設備、学科・学系の構成等に関する具体的な内容については、統合対象校の校長等、PTA及び同窓会、並びに所在地の教育委員会及び地域の中学校の代表者等で構成される統合検討委員会を設置し、委員の皆さんの意見を伺いながら検討します。

3 二戸地域の振興に向けて

【福岡工業高校の特色】

- 生徒一人ひとりの個性と能力と適性を伸ばし、生涯を通じて社会の変化に対応できる柔軟な思考力と逞しい実践力を持った技術者の育成
- ・ R1 ものづくりコンテスト東北大会 3 位（2 部門）
 - ・ 各種検定、資格取得の励行
合格実績（R1）：電気工事士 1 種 59.3%、2 種 86.2%
 - ・ R1 国民体育大会 弓道 入賞（男女個人）

【一戸高校の特色】

- 各自の個性を生かし自分らしく生きる力、主体的に学習活動に取り組む力を育み、地域を支え、発展に貢献する人材の育成
- ・ 職業体験を通じた職業観や勤労観の醸成
 - ・ R1 管内就職率 54.3%
 - ・ R1 県高総体
男子剣道：第 2 位、女子なぎなた：第 2 位

各高校の実績・成果を継承し、
更なる向上への取組を図る

専門的な学びを希望する、
より多くの生徒が集う学校へ

二戸地区の中学校から 86.0 人がブロック
外の学校に進学（H30～R2 年度の平均）

【二戸地区の生徒を他地区に流出させない】

二戸地域の産業・社会を支える
人材を、この地域で育成する

いわて県民計画(2019～2028)

「北いわて社会・産業革新ゾーンプロジェクト」
の推進へ

- ・ 豊かな地域と高速交通網の進展を活かし、地域の特徴的な産業の振興、交流人口の拡大
- ・ 豊富な産業再生エネルギー資源の産業分野・生活分野での利用促進 等

北いわてのポテンシャルを最大限に発揮し、あらゆる世代がいきいきと暮らし、持続的に発展する先進的なゾーンの創造